

特217  
445

紀元二千六百年

大阪市住吉区々政概況

十月九日  
松本  
氏  
大正九年



0008541-000

特217-445

大阪市住吉区々政概況

大阪市住吉区役所庶務課

昭和15年

昭和15

ABI

特217  
445



昭和十五年

大阪市住吉區々政概況

住吉區役所



此の圖は藤原信實第三十六歌仙の一圖である。一説に筆者を光時(姓不詳)ともいふ。此歌仙の巻は下加茂神社の神庫にあつたが、大正八年三十七個に分斷されて買却された。信實は鎌倉時代初期の人で光時も同時代の人である。住吉の圖としては今日に傳つて居るもので最古のものとするべきである。

後鳥羽上皇が建永二年京の三條白河に最勝四天王院を建立せられた時の繪師「尊智、康俊、康俊、康俊、光時」四人に命じて此の院の障子に四十六ヶ所の名所を畫かしめさせられた。その時に康康は住吉浦を畫いたことが「明月記」に見えて居る。此の障子と此の歌仙とは、ほぼ同時代のものであらう。併し此の障子は今は傳らぬ。

康康が名所障子の命を受けた時に須磨、明石は程遠からぬ所であるからその地を見てから畫かねばとて馬に鞭うつて彼地に下り、又藤原秀能は異國を見てゐるからとて四人の介添とせられた。當時の畫家が畫いたところは想像ばかりではない。信實の此の圖も實際を見て畫いたものと思像し得る。

最勝四天王院の名所障子には上手の歌人から歌を召され、名所毎に數首の和歌が詠せられて其の内の一首が色紙形に押されてあつた。住吉濱は後鳥羽上皇の御製であつた。左に重なるものを收録しよう。

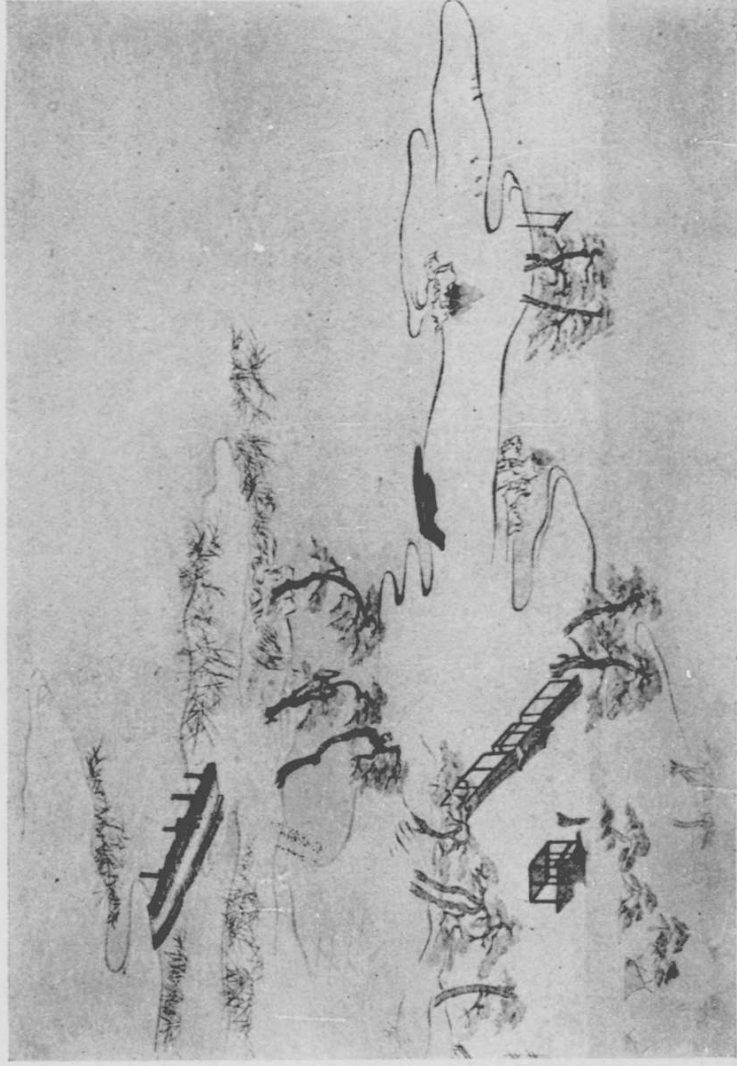
住吉の浦こく船のたえたえに霞ますとも跡は見えしを  
後鳥羽上皇

思ひやる神代の春ぞ住よしの遠さとをの霞なりけり  
燕 園

白菊の匂し秋もわすれ草おふてふきしの春の浦風  
定 家

淡路島分の浪をすみよしの松さへかます春の浦風  
家 家

燕 園



寒 湖  
空 窓  
窓 間  
翁 皇 孫 土 皇

芳烈皇女の馬を十はふしの巻をへばち春の節風  
白雲のけし梅もひそむ草もえつちしの春の節風  
思ひする帷外の春をよふしの巻をよするの巻をりひり

由吉の節こう様の大々大々の巻をよつとも相見大いさま

いそ。

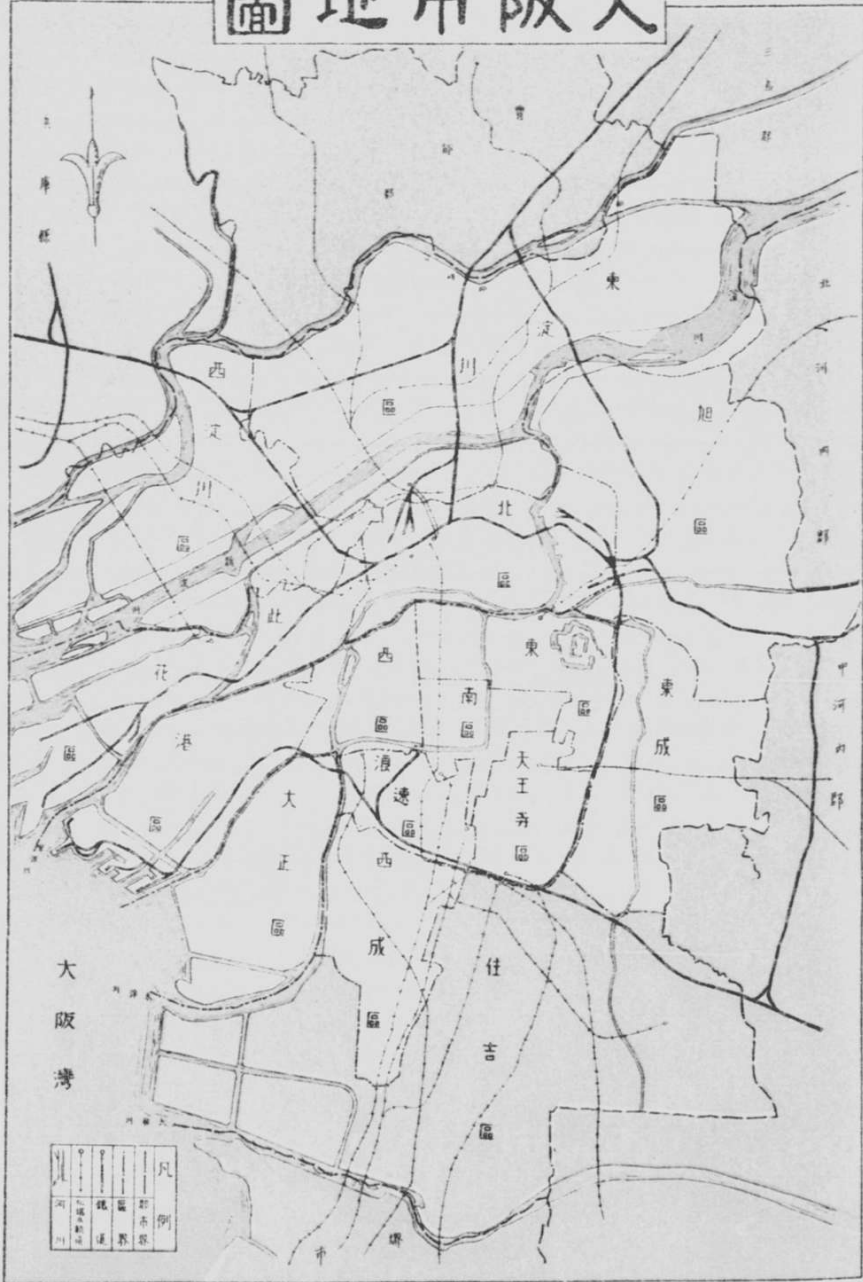
ま。由吉殿は翁皇孫土皇の暇遊がもこす。五の重なるものも神遊し  
の遊首の味神流利やとよ其の内の一首は急遊紙の所をよつとも  
皇孫四天王の谷祖朝千の土羊の都人やう都ま居らけ。谷祖朝  
見つ遊ハスものう遊遊し遊る。

遊遊は遊ハスものう遊遊し遊りかおさ。節貫の此の園も實遊を  
遊風衣遊は東園を見つるやとよ四人の衣遊とせさけす。當朝の  
るよとちの遊遊見つやと遊遊はけつて遊遊の遊とて遊遊の遊り、又  
衆朝は谷祖朝千の命を授けし朝の遊遊、見つは遊遊やと遊遊がま  
利朝同朝千のものかあると。将し此の朝千は今お遊とひ。

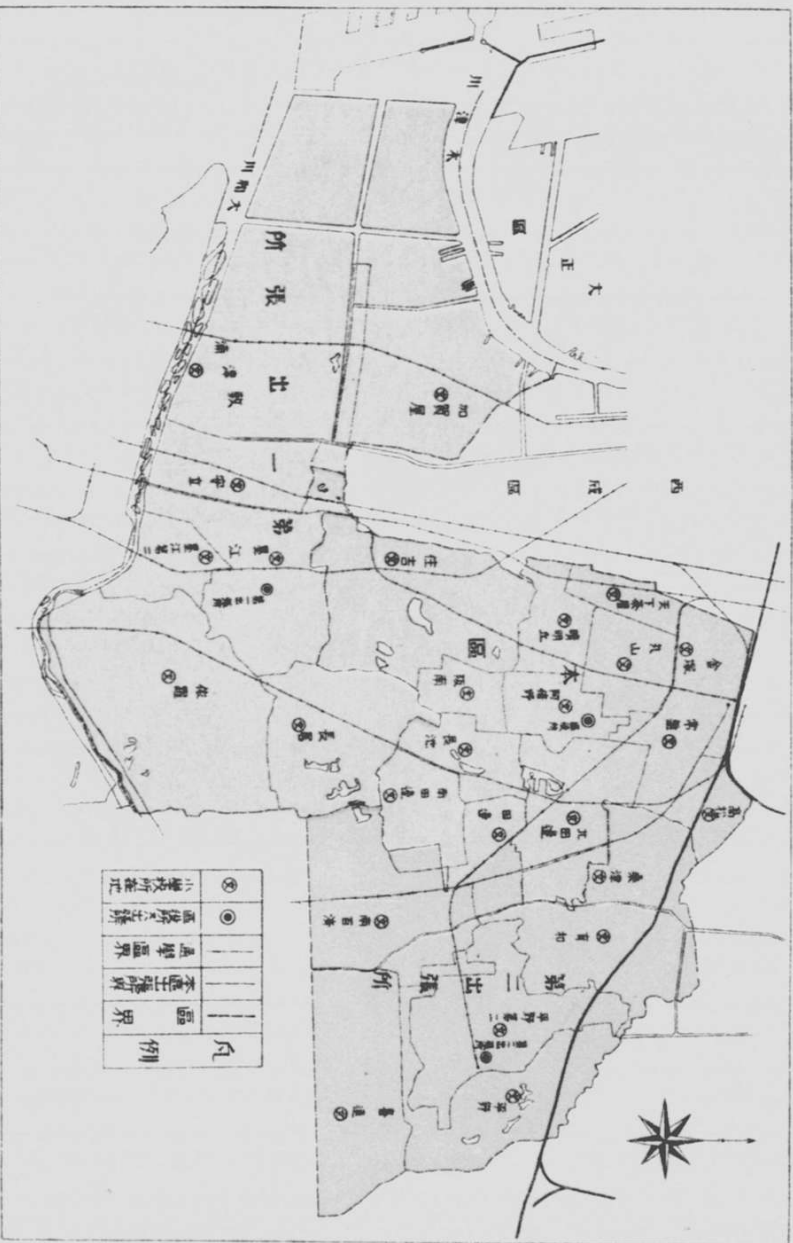
遊ハスものうは「遊見遊」の見よつ遊る。此の朝千は此の遊遊とひ、  
四十六の遊の谷遊を遊遊し遊ちやとよ。ちの朝の衆朝は由吉遊ま  
朝の遊遊「遊遊、衆朝、見遊、光朝」四人の命つて此の遊の朝千の  
翁皇孫土皇は幾々二平京の三遊白所は皇孫四天王遊を遊立せとよ  
ものか遊古のものよとよまかある。

人が光朝も同朝千の人かある。由吉の園よりつて今日の遊とて遊る  
大五八平三十の遊の遊遊をよつて遊遊をよす。節貫は遊遊朝千の遊遊の  
（遊遊）もよひ。此の遊遊の遊遊は遊遊朝千の遊遊の遊遊は、  
此の園は遊遊遊遊遊三十六遊遊の一遊かある。一遊の遊遊は光朝

# 大阪市地圖



住吉區區所強出區本  
 小學校交通區區  
 (本區出強所區區交通區區)



## はしがき

一、本書は今回本市區政課の提唱に基き、紀元二千六百年の佳歲に於ける、當住吉區の區政概況を簡単に記述したものであるが、何分匆卒且短時日に編纂した爲め、資料の蒐集整理が充分でなく、又各章間の登載事項に不均衡な點が多い。

一、特に登載した名勝古蹟、寺院の項中、採否に又採用しなかつたものに付き、相當論議があると思はれるが、紙幅の関係もあり、不取敢これ位で止めることにした。他日機を見て補正したい。

一、兵事々項並に各章に於て登載すべき諸統計は種々の關係からして、凡て抹殺に等しい省約をした。

一、附録の区内名譽職員録は、今回本市に於て登載者の範圍が定められたので、従來のそれと内容を異にしてゐる。(但し登載順位は原稿出來順に依つた)

第十二章	第十一章	第十章	第九章	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章
官公署所在地	名勝古蹟	各種團體	厚生	兵事	宗教	教育	納稅	世帶人口	土地建物	沿地	位置及地勢
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
七五頁	六一頁	五八頁	五一頁	五〇頁	二五頁	一七頁	一四頁	一一頁	九頁	一頁	一頁

目次



附記

一、願屆書期間一覽 ..... 八三頁

二、區の機構 ..... 八九頁

附録

区内名譽職員録 ..... 九六頁

第一章 位置及地勢

當區の位置は大阪市の南部に位し、南は大和川を隔て、堺市に、東方は遙に葛城、金剛の連峰を望んで中河内郡に隣し、西は西成區と境して其の一部は大阪灣に臨み又北は東成天王寺の兩區に接してゐる。

地質は丘陵台地の基地を構成するものは第三期新層であつて表土は概ね洪積層に屬し西部西成區に接する地は沖積層、臨海の地は概ね近年の埋立地である。

又區内の最高地は阿倍野葬儀場の交叉點で海面よりの高度一八・七米で最低地は嬰木町の〇・八米である。

第二章 沿革  
名稱

住吉の往古は墨江と稱したことは古事記に住吉神を墨江大神、住吉津を墨江津とある。